谷秦山をもっと　知ってもらいたい

高知県秦山会は谷秦山の功績を称え後世に継いでいくために活動を行っています。高知県秦山会の会長であり、香美市教育長の時久惠子さんに、秦山会の展望について語っていただきました。

高知県秦山会 会長
時久惠子さん

高知県秦山会とは

高知県秦山会では、谷秦山の功績を後世に受け継ぐべく活動を行っています。大正7年に八井田寛婦人科院長を会長に発足して以来、墓所の清掃や桜の植樹等お墓周りの整備など、歴代の秦山会先輩方が熱心に活動されてきました。毎年2月第3日曜日には、谷秦山墓前祭を開催しています。平成23年には第50回谷秦山墓前祭も盛会に行われ、本年は第59回墓前祭を2月16日に執り行いました。

▲昔の墓前祭の様子

渋川春海の愛弟子

土佐南学の復興や冤罪から蟄居を命ぜられ、なお多くの門弟が秦山のもとに集い学問への研鑽を積んだことはよく知られていますが、私がさらに注目したいのは、幕府の初代天文方の渋川春海に師事し天文学と暦学を修めたことです。

天文学と暦学の最先端の研究に取り組んでいた渋川春海に師事できたことは、秦山の人生において重要な部分であったのではないかと想像します。生涯に執筆した書物の中には、天文学や暦学についてのものが数多くあり、渾天儀（こんてんぎ）と呼ばれる惑星の位置等を知るための機材を購入するなど、熱心に取り組んでいたことがわかります。秦山は渋川春海に手紙を送り朱書きの返信で学んでおり、今でこそ一般的になっている通信教育をこの時代に行っていたと伝わっています。

このような、秦山の学問に打ち込む姿は門弟をはじめ多くの人々の心を揺さぶり、秦山が貧苦や病気にみまわれた時には人々が助け、支えてくれました。

現在でも秦山先生を見習いたいと、学問を志す多くの方が墓所を訪れています。

国旗とお守り

秦山会では、国旗の販売やお守りの頒布も行っています。

◆お守り頒布、国旗販売所

・八王子宮
土佐山田町北本町2丁目
☎52・2957

・メモリアルサービス十季
土佐山田町西本町2丁目
☎53・5151

・ハチロー染工場
土佐山田町楠目
☎53・2276

・山本幸雄（北組西）

※山本幸雄さんはお守りのみ

今後の秦山会

現在、副会長の寺村勉さんを中心に墓前祭を行っていますが、後継の若い人たちにも秦山を知っていただき、参加をしていただければと思っています。香美市の未来を担う子どもたちに香美市にはこんな素晴らしい人物がいたということを知ってもらい、これからも末永く墓前祭を執り行い、秦山会の輪が広がっていくことを期待しています。

平成30年に谷秦山没後300年を記念して、香美史談会から『学聖・谷秦山―その生涯と秦山学大成への道―』が発刊されました。その際、この本の編纂委員の一人として発刊に携わられ髙田俊祐さんに、谷秦山の魅力について語ってもらいました。

香美史談会事務局長
髙田俊祐さん

『学聖・谷秦山』発刊のきっかけ

谷秦山没後300年の節目に秦山会からの依頼もあり発刊の運びとなりました。

香美市の方で秦山公園の北側にある谷秦山墓所を知らない方が少なからずいらっしゃると思います。今や谷秦山を知る方は少なくなってきています。若い方にも秦山を知ってもらいたい、もっと盛り上げていきたいとの思いで編纂しました。

香美市と谷秦山

秦山町に秦山邸跡地があるように、香美市と谷秦山には深いつながりがあります。南国市で神官職・谷神兵衛重元の三男として生まれた秦山は、4歳で高知城下に移り、35歳で結婚、38歳の時に現香美市土佐山田町秦山町3丁目へ長男垣守をおんぶして移住し、自邸を構えました。その後56歳で死亡するまで19年間居住されました。邸跡は香美市指定史跡となっています。

秦山の香美市での19年間は、厳しくつらいこともあったようですが、勉学に心血を注げる素晴らしい時間でもあったようです。

秦山の死とぐいみ谷墓所

享保3年6月30日、秦山が早朝の講義を終え詩文の添削中突然激しい頭痛に襲われ、宵の8時半頃死亡しました。死因は2回目の脳卒中と考えられます。秦山が墓所として希望していた寺に全て断られ、弟子たちは墓を前山のぐいみ谷と決めたようです。葬儀は中町超願寺で執り行われました。

秀才、大儒の道へ

秦山は幼少期から神童とよばれるほどの学力がありました。そんな秦山を見て父重元はただものではないと思っていましたが、法華経をたった2か月足らずで暗唱できるに至って、秦山を京都の儒学者・山崎闇斎の元へ入門させました。

秦山はここでも、たちまち頭角をあらわし周りの弟子たちを驚かせたそうです。しかし、秦山は眼病をわずらい一年ほどで帰郷しています。その際、闇斎は秦山の非凡さを見抜き、「頑張れ」と激励したそうです。

その後、秦山は闇斎から天文・暦学者の大家渋川春海を紹介され、門下に入り二人には文通（通信教育）で教えをうけ、闇斎亡き後は高弟・浅見絅斎に師事、飛躍的に力をつけて国学を柱とした土佐南学を大成させました。大儒として一家を成したのです。

香美市の誇れる偉人谷秦山

高知県出身の幕末の偉人である坂本龍馬や武市半平太たちをむすびつけたのが土佐南学であり、大成へと導いたのが谷秦山です。秦山は病弱、困窮、家族の不幸、冤罪など辛酸を舐めましたが、書を読み、星を見上げて勉学にはげみました。墓は秦山を慕う人々の手で整備されています。皆さん、全国に誇れる偉人・谷秦山の墓を訪れてみてください。